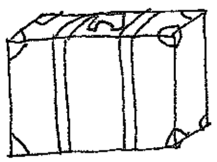
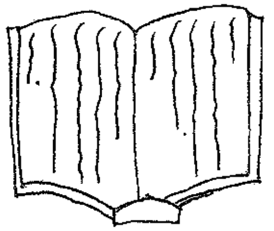
これを読めば、旅をした気分になれる本





『夜のピクニック』 恩田陸著

主人公・甲田貴子の通う北高には毎年、全校生徒が夜通しで 80kmを歩き通す「歩行祭」という伝統的な行事がある。貴子は、この高校生活最後のイベントで「小さな賭け」をすることを誓い、長い道のりを歩き始めた。3 年間隠し通してきた秘密に決着をつけるために…。

親友との思い出話に浸りながら高校生たちが自身の過去に区切りを付ける青春物語。

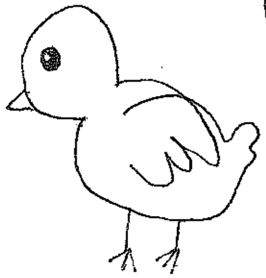
78 期 N.T

『ラストラン』 角野栄子著

東京の角で一人無為に時を過ごすおばあさんこと山野イコは、自身のための最後の旅であるラストランを試みることにした。行き当たりばったりで決めた彼女の旅の第一の目的は、唯一遺された写真だけに存在している母とその生家を探すこと。幾年ぶりにバイクにまたがり東京を飛び出し岡山まで疾走するイコ。しかし辿り着いたそこにはなんと自分の母の名を名乗る一人の少女が住み着いていたのだった。

生と死の境目を超えて少女とおばあちゃんが交わる時、凍っていた時は動き出す。少女とおばあさんの奇怪な旅物語がここから始まる。

77 期 A.W



『青い鳥』 モーリス・メーテルリンク著

クリスマスイブの晩、チルチルとミチルという兄妹のもとにある魔法使いが現れます。その魔法使いの孫娘は病気を患っていて治すためには幸福の鳥と呼ばれる青い鳥が必要だということでした。魔法使いから青い鳥を探すよう頼まれた二人は、光の妖精を案内役にし青い鳥を探す旅に出ます。

旅の途中、チルチルとミチルは様々な場所を訪れ、沢山の人と出会いましたが、青い鳥はみつかりません。

果たして二人は青い鳥を見つけ、病気を治すことができるのでしょうか！？ぜひ読んでみてください！

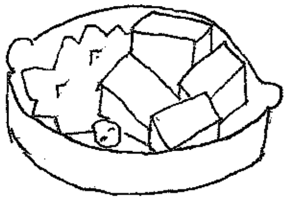
81 期 A.S

『津軽』 太宰治著

この本は、太宰が故郷である津軽を訪れ、そこから本州最北端の津軽半島を約三週間かけて巡った旅を綴った紀行エッセイです。旅の途中、太宰は旧友や地元の人々と触れ合いながら、懐かしい思い出に心を寄せていきます。津軽ならではの文化や風景、人々との交流を通して、郷土に対する太宰の深い思いが伝わり、読んでいて心が温まります。

特に、風景や食べ物の描写が洗練されており、私も実際に津軽を訪れてみたいと感じました。

77 期 M.T



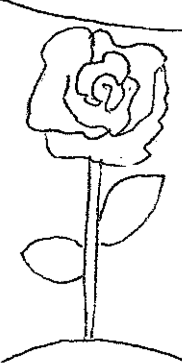
『ふしぎの国のアリス　ディズニーアニメ小説版』 テディー・スレイター作，橘高弓枝訳

この本は、好奇心旺盛な少女アリスが沢山の不思議な出来事に出会う夢のような冒険物語です。

アリスはある日奇妙な格好をしているウサギを追いかけて穴に落ちてしまい、様々な動物、出来事に出会います。読んでいると、想像力や好奇心を持つことの大切さが実感できます。

ディズニーのお話は親しみやすいので、オススメです。挿絵は殆どありませんが、可愛らしい口絵がたくさん載っているので、是非見てみてください。

81 期 C.I



『ガリヴァー旅行記』 ジョナサン・スウィフト著

『ガリヴァー旅行記』は、幾度かの航海を経験した主人公ガリヴァーが、小人の国や巨人の国、空を飛ぶ島、話す馬の国などの様々な国を旅する物語です。冒険物語としても十二分に楽しめる一方、そこには社会批判や皮肉が込められています。

様々な異世界を冒険する気分が味わえるおすすめの一冊です。

80 期 M.D

『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ著

この本は、小さな王子さまが砂漠に不時着したパイロットと出会い、王子さまが旅してきた色々な星での出来事をパイロットに話して聞かせるという物語です。そこで出会った人々との思い出話を通して、人として大切なことは何なのかが描かれています。

王子さまが純粋な子供だからこそ、知識を得て大人になることが本当に幸せなのかを考えさせられました。

最初に読んだときは謎に感じられる部分が多いですが、何度か読むと腑に落ちる瞬間があり、いつ読んでも楽しめます。ぜひ読んでみてください！

79 期 C.H